

令和6年度 第2回愛知県生涯学習審議会社会教育分科会会議録

1 開催期日

令和7年2月14日（金） 午後2時15分から午後3時20分まで

2 場 所

愛知県議会議事堂ラウンジ

3 出席した委員 計9名

大川千恵子、近藤 博子、永田 千佳、彦坂永利子、藤井 和久、益川 浩一、
宮崎 初美、山口喜久枝、山本 由佳

4 欠席した委員 計1名

池田 紀代美

5 会議に付した事項

○ 議題

- ・ 「地域と学校の連携・協働推進ハンドブック」の作成について
- ・ 令和7年度社会教育関係団体補助金（案）について

6 議事の経過

○ 会議録署名人の指名

分科会長から大川委員と宮崎委員を署名人に指名

○ 議題 「地域と学校の連携・協働推進ハンドブック」の作成について

事務局から「地域と学校の連携・協働推進ハンドブック」の作成について説明

藤井委員： 全体的にまとまりはよいが、地域の方はコミュニティ・スクールや地域学校協働活動という言葉を知らない方が多い。資料4の上の段は、タイトルの下に説明文があるので分かりやすいが、下の段はタイトルの次にイラストに目が行ってしまう。タイトルを上配置するか、説明文をイラストの下に配置するとよい。資料4－（2）では、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の説明文がイラストの上にあるとよい。

彦坂委員： 二つの資料をどう使い分けるとよいか気になった。資料4－（2）の方が、ある程度分かっている人にとっては親切だと思うが、高齢の方にとっては、ぱっと見て内容が分かるようなものがよい。分かりやすさで言えば、資料4の方がよいと思う。

益川会長： 作るのは1種類ということによかったか。事務局として概要版のターゲットは誰を想定しているか。

事務局： 概要版は1種類で、メインとなるターゲットは地域の方を考えている。

宮崎委員： 資料4の方がシンプルであるが、資料4－（2）には写真付きで具体的

な事例が載っている。これから取り組むにあたり、内容を理解しやすいのではないかと。二次元コードを読み取るとあいちの学び推進課のホームページを見られるが、県が作成したものであるため、問合せ先の電話番号が書かれていると見る人にとって安心感がある。

山口委員： 関心がある人は具体的な取組を知りたいと思う。ここに書いてあることに心を動かされて、同じようなことを自分もやってみたいと思われる方もいると思うので、事例は何らかの形で残した方がよい。

山本委員： どこにターゲットを置くかによって変わってくる。資料4は簡略にまとまっており、資料4-(2)は興味がある人にとって具体的な内容が分かり、自分もできそうだと考えてくれるかもしれない。ただ知ってほしいということであれば、資料4の方がよい。ターゲットをどこに絞っていくのかしっかりと考える必要がある。

益川会長： ターゲットはボランティアとして関わっていただきたい方か、あるいは組織で活躍いただきたい方か。また、これから関わっていただきたい方か、すでに経験のある方なのか。想定についてもう少し詳しく説明していただきたい。

事務局： 第1回の分科会で、リーフレットを持って行って地域の方に呼びかけてくださっているという話を伺い、そうした際に活用できるチラシにしたいと考えた。地域の方の中でも、これから参画していただきたい方をメインのターゲットとして想定している。

益川会長： 主にこれから仲間を増やしていく際に活用いただくという共通理解でよろしいか。これまでの意見を総合すると、どちらかというとなら資料4の方が総合的な内容がまとまっているのでよいのではないかとということであったように思う。

近藤委員： 資料4は確かに基礎・基本がまとまっているが、資料4-(2)には実践が載っている。コミュニティ・スクールをある程度理解している人たちも半分いるとするならば、こうした事例も必要だと思う。コミュニティ・スクールは物語作りだと思っている。活動の広がりを考えれば、授業実践や地域の運動会、祭り等の事例が多い方がよい。資料4-(2)の方が字は多いがエキスが詰まっている。手記もあるので、「学校運営協議会に入ってみよう」、「ボランティアとして参加していこう」という気持ちになる人もいると思う。資料4を一步進めた形である資料4-(2)の方がよいと思う。

大川委員： 「ミシン学習の支援」を聞いたことがなかったが、知り合いの教員に聞くと本当に必要だという話であった。私自身も登校時の見守りをしてきた。

大切なのは、「できる人が、できるときに、できることをする」ということだと思う。このチラシは地域実践活動交流協議会にももらえるのか。県下の6団体に広げることができる。

永田委員： 字が大きくなって、とても見やすくなった。具体的に何をしているのかわかった方がよいので、四つの事例はあった方がよいと思う。連絡先として電話番号もあった方が親切である。行間がもう少し広がると読みやすくなる。コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の概念自体が難しいので、ぱっと理解できるようになるよいと思う。表紙から見守りだとすぐに分かるが、活動は見守りだけではない。祭りや運動会等のイラストがあってもよい。文字だけでは読みづらいので、読み聞かせの本や見守りの旗、花壇の花のイラストがあると、文字だけの場合よりも理解しやすくなると思う。

益川会長： 概要版は、地域の方、新しく仲間になっていただきたい方をターゲットとして作成しているので、字の大きさ等も含めて資料4の方がよいだろうというのが全体的な意見であったと受け止めた。ただ、資料4-(2)には具体的な事例があり、イメージしやすく、実感をもって理解していただくことができるので、そうした事例があった方がよいというのも全体の意見であったように思う。

事務局： 御意見を伺って、資料4をベースにし、裏面のメリットの部分をカットして四つの事例を載せる方向で考えてみたい。

益川会長： 実践は更新されていくので、こうしたリーフレットを作る場合、ポケットのようなものを作って実践例を積み重ねていくという方法もある。資料4をベースにしながらか事例も入れたいということであれば、事務局から提案があったような形になると思うが、どう思われるか。

藤井委員： 資料4-(2)の事例は、ハードルが高いものが多い。誰にでもできて、月に1~2回、年に数回の活動でもよい。身近にできる活動の事例を紹介できるとよい。始業前の丸つけや探究学習となると、取り組める地域や学校が限られてくると思う。先ほどメリットの部分をカットするという話があったが、私は結構大事だと思っている。やらされ感を感じないよう、メリットを伝えていくことも大切だと思う。

益川会長： 基本形としては資料4をベースにしながらか、行間や字間を少しとったり、図やイラストを入れてイメージしやすい形にしたりしつつ、資料4-(2)の具体例をもう少し敷居の低いものにして入れていただくような方向で考えていただきたい。事例の中に、例えば子供たちの学び等、メリットを書き込むのも一つの方法であると思う。

永田委員： 私もメリットはあった方がよいと思う。字も大きい方がよいが、全て大きくなくてもよい。重要なコミュニティ・スクールや地域学校協働活動の概念については大きな字で説明しながらも、だんだん字が小さくなっていてもよいと思う。やはり表紙が重要であるので、子育て中の女性と高齢の男性のイラストと言葉が載っているが、子供と一緒に活動している運動会や草刈り、花壇整備、読み聞かせ等の具体的な活動を表すイラストがあるとよい。

宮崎委員： 資料4を開いて表面と裏面を並べて見ると、吹き出しの内容がよく似ている。どちらかを生かして配置を工夫するとよい。学校運営協議会のイラストは皆がスーツを着ており、敷居の高さを感じる人がいるかもしれない。全体的に若い女性か高齢の方のイラストが多く、子育て支援に関わる世代の女性の方があまり見えてこないなので、イラストも工夫するとよい。

大川委員： 私も同じ意見である。表紙の写真にも女性が入っているとよいと感じた。

益川会長： アンコンシャス・バイアスとよく言われるが、無意識につくり上げたイメージというものかもしれない。イラストについては改めて検討いただきたい。内容としては、工夫すれば具体的な事例とメリットも入れられると思う。資料4をベースにしながら、実感をもって理解していただくことも大事であるので、事例を入れ込んだ形を模索していただきたい。本冊については皆さんからいただいた意見を反映していただき、分かりやすい、貴重な資料になったと思う。

- 議題 令和7年度社会教育関係団体補助金（案）について
事務局から令和7年度社会教育関係団体補助金（案）について説明

益川会長： 全体として予算額が減っているが、縮小したというよりも、経年の中で適切な額が計上されていると理解してよろしいか。

事務局： 事業費が少しずつ少なくなっているが、生涯学習の振興に係る事業は非常に大切である。できるだけ継続していくとともに、新規事業にも取り組んで新たなニーズを発掘していけるよう努めていきたいと考えている。